



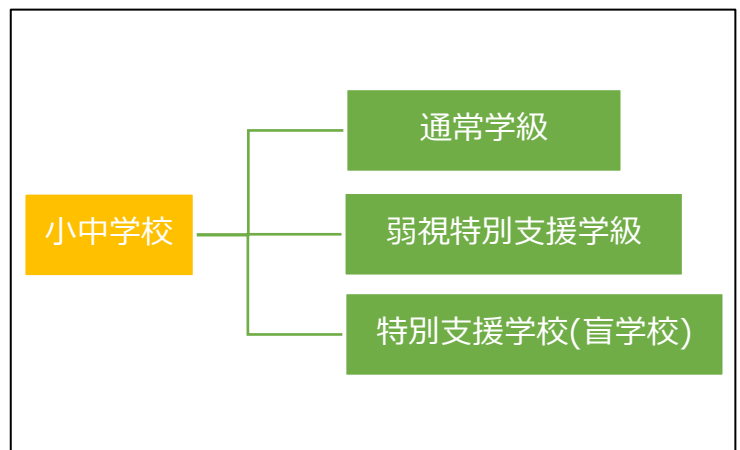
早いもので今年ももう終わります。昨年の今頃に「来年のコロナ禍はどうなっているだろう」と思っていたのですが、休校などはなかったものの厳しい状況が続きました。

現在もオミクロン株の脅威が迫っている中ではありますが、来年こそは落ち着いた日常が戻ってくることを願います。

進路について

小中学校段階での選択肢は、「通常学級」、「弱視特別支援学級（弱視学級）」、「特別支援学校(盲学校)」があります。

現在の佐賀県における弱視特別支援学級（以下：弱視学級）の状況としては、すべての時間を弱視学級で学習や活動をしているというところはありません。一部の教科等は弱視学級で、他の教科等は交流学級という形で行われています。交流学級で活動する際には、弱視学級の先生が個別に視覚的支援をされることが多いのですが、交流学級の先生がプリントや板書などを工夫されることもあるようです。



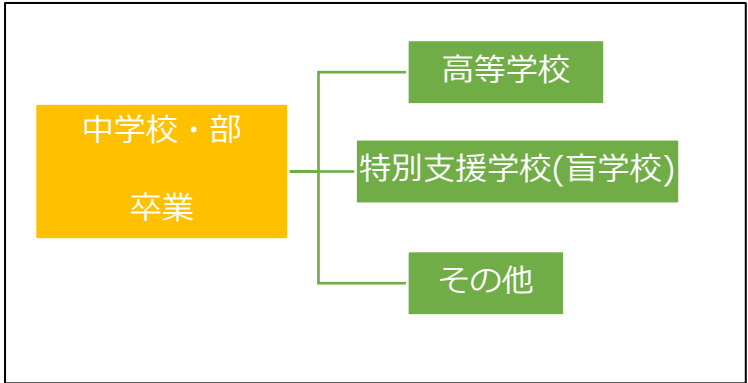
入学時に特別支援学校（以下：盲学校）を選ばれるのは、視機能の状態が重度であることや専門性の高さなどを重要視されることが多いようです。ただ、デメリットとして、県内に一校しかないため、居住地から離れ、寄宿舎を利用しなければならないことや遠距離通学になる場合があること、在籍幼児児童生徒数が少ないために集団活動の保障ができにくいなどがあげられます。

次に中学校を卒業する際の選択肢は、大きく分けると、「高等学校への進学」、「盲学校への進学」、「その他」の3つに分けられます。

高等学校における見えにくさのある生徒についての支援は、早期からの本人・保護者の要請、中学校との連携などが必要となり、学校の状況等に応じて対応が異なります。教科書に

についても、中学まではあった拡大教科書は、出版社が対応していないものがほとんどで、あっても高額（高校からは自費負担）になります。そのため、必要に応じて拡大コピーを用意されることもあれば、弱視レンズやタブレット PC などの利用を促されることもあります。

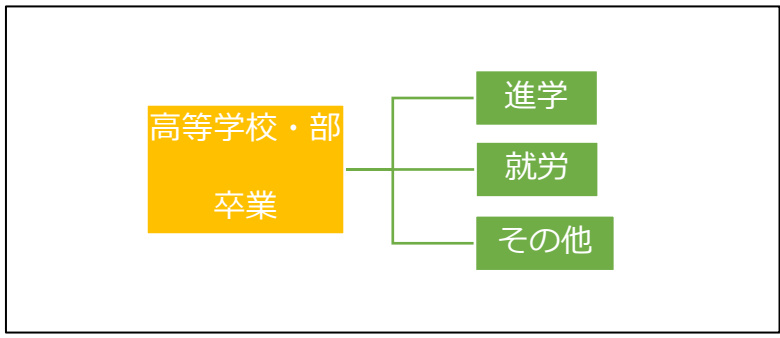
盲学校には、地域の中学校から高等部に入学される方もおられます。年齢的にも遠距離の通学や寄宿舎の入舎が可能となることや専門性の高さを必要とされるためだと思われます。就学条件を満たせば、佐賀県では県立高校と盲学校の併願は可能となっています。



その他は就労ですが、これはほとんどありません。

高等学校卒業後の進路は、大きく分けると、「進学」、「就労」、「その他」の3つに分けられます。

進学先を決める際には、進学先でどれくらいの支援が受けられるかが大事になります。大学になると組織が大きく、すべての授業で支援が徹底されることはかなり難しいと思います。ただ、少なくともはありますが、申し入れを重ねて必要な支援を受けながら大学を卒業するケースもあります。



また、視覚障害者・聴覚障害者のための大学として「筑波技術大学」があります。筑波技術大学では、ルーペや拡大読書器などの支援機器が揃えられていたり、点字・拡大・録音版の教科書や資料を作成し提供したり、点字による指導や歩行指導をしたりされています。



筑波技術大学

就労については、視機能の状況によって、盲学校に入学して、あん摩マッサージ・鍼・灸の仕事を選ばれるケースも増えてきます。一般の専門学校でも学ぶことはできますが、視覚障害のある方は盲学校に来られることが多いようです。

また、一般の事務職に就くケースもあります。音声読み上げや音声認識、画面の拡大、色の反転などができるコンピュータを使って仕事を行なわれています。この他にもコールセンターやシステムエンジニアなどの仕事につくケースもあります。いずれの場合も視機能の状態や必要なスキルとの兼ね合いになるかと思えます。

その他では、障害者手帳を持ち、障害福祉サービス（訓練等給付）を利用するということでは、自立訓練（機能訓練）、自立訓練（生活訓練）、就労移行支援、就労継続支援 A 型（雇用型）、就労継続支援 B 型（非雇用型）等があります。利用については審査及び認定、利用

する事業所との契約も必要になります。

将来の進路について考えるのに早すぎることはありません。インターネットなどの情報を集めたり、事業所の見学をしたり、高校や大学などの支援の状況を確認することなどで、これから身につけなければならない力が明らかになることもあります。本人や保護者と学校が協力をして、より良い進路について考えていきましょう。

視力の表し方について

児童生徒が眼科に行き、視力等の詳しい資料をもらってきたが、記号や数字の意味がわからないということがあります。

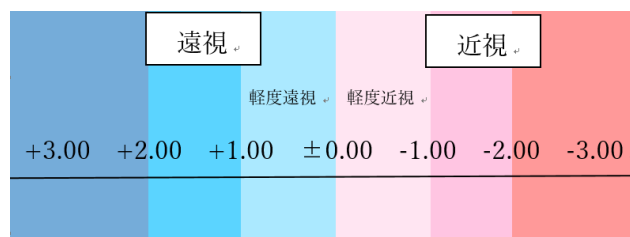
そんなときのために、眼科で使用される視力などの表し方について、少し説明をします。

LV : 0.1 (1.2×S-1.0D=C-0.15D A×90°)

眼科では、視力について上記のように表されます（ただし、これは表し方の一例ですので、違う表記をされている場合もあります）。初めて見ると、どういう意味なのかわかりにくいのですが、これは近視で眼鏡をかけている人の視力を表したものです。

- ・最初の「LV」は「Left Vision」つまり、左目のことです。
- ・次の「0.1」は裸眼の視力です。
- ・（ ）の中の「1.2」はこのレンズを使って得られる矯正視力です。
- ・次の「S」は球面レンズと呼ばれるものを示しています。
 - ・「-1.0D」は球面レンズの度数を表します。ここでは数字の大きさだけでなく、+か-かが大事になります。+なら遠視、-なら近視用のレンズを使うということです。D(ディオプトリー)は単位です。下記の表も参考にしてください。
- ・「C」は円柱レンズ、つまり乱視用のレンズのことです。
- ・「-0.15D」は円柱レンズの度数を表しています。
- ・最後の「90°」は円柱レンズの軸を表しています。円柱レンズはそれぞれにあった位置(0°~180°)に合わせなければなりません。その位置のことを軸と言います。Aはaxisで軸のことで、単位は度(°)です。

(「×」「=」は接続詞みたいなもので、気にしなくて良いそうです)



つまり、この人は「左眼の裸眼視力が0.1で近視、乱視もある。矯正視力は1.2である（その矯正視力を得るために度数1の近視用レンズと度数0.15の乱視用レンズが必要）」ということになります。

眼鏡処方箋					
NO. 26201		殿			
住所		AGE.			
FOR DISTANCE					P.D. 57 %
	③ S P H.	④ C Y L.	⑤ AXIS	⑥ PRISM	⑦ BASE
R	-5.00 D	-0.25 D	°		
L	-4.25 D	-0.25 D	°		
FOR READING					P.D. %
	S P H.	C Y L.	AXIS	PRISM	BASE
R	D	D	°		
L	D	D	°		

左記はメガネの処方箋です。前述の視力の表記と同じような内容です。

①は遠くを見るための度数という表記です。

②「P.D.」は「瞳孔間の距離」です。単位はmmです。

③「SPH」は「球面レンズ」の意味です。先では「-」が付いているので、近視ということになります。

④「CYL」は円柱レンズという意味で、乱視の度数を表しています。

⑤「AXIS」は「円柱レンズの軸」という意味です。ここでは記入されていませんが、どの方向に乱視の度数を合わせれば良いかを表します。④の「CYL」に数値が記入されていて、この「AXIS」に記入されていないということは「乱視がないか多少あるけれど、矯正する必要はない」ということになります。

⑥「PRISM」は斜視や斜位の場合に、必要に応じて記入されます。

⑦「BASE」は⑥の「PRISM」と対になっていて、どの方向「PRISM」の「BASE(基底)」を向けるかを表します。角度や「内方」「外方」などと書かれます。

いかがでしたか。ちょっと難しいかもしれませんが、知っておくと、役に立つことがあると思います。

日頃の指導で悩まれたり、困られたりしていること、「こういう資料がないか」などがありましたら、お気軽にご連絡ください。
巡回相談の依頼も受け付けています。

佐賀県立盲学校 電話 (0952) 23-4672 代表メール mougakkou@education.saga.jp

FAX (0952) 25-7044 ゆうあい担当 miyata-yoshihiro@education.saga.jp